

令和3年度研究プロジェクト計画概要

研究種別	■自主研究 19	公益目的事業 19
主査名	森本章倫 早稲田大学教授	
研究テーマ	アフターコロナを見据えたスマートシェアリングシティに関する研究※※	
環境、交通、エネルギー、通信など分野横断型のスマートシティの取り組みが進められる中、2020年のCOVID-19のパンデミックによって、ICTを活用したスマートシティへの期待が高まっている。特に、緊急事態宣言においてテレワークが急速に浸透し、eコマースが日常化するなかで、新しいライフスタイルに適合した都市計画が必要とされている。郊外化や低密化の嗜好性が高まる中で、人口減少社会の中で必要とされる都市のコンパクト化とどのように整合性を取るのかが、都市計画の課題となっている。 本研究会では、これまで国内外のスマートシティの近年の動向をとりまとめ、人口減少下での我が国でのスマートシティのあり方や、コンパクトシティとの連携について検討してきた。そのなかで賢く時間や空間をシェアすることの重要性が明らかとなった。 そこで2021年度は、アフターコロナを見据えた持続可能な社会を実現するために、稼働していない資産を効率的に共同利用している都市(Smart Sharing City)について、COVID-19が都市に与えた影響を前提に、望ましい都市のあり方について研究を行う。 研究は以下の3つの視点で分析や討議を行う。 (1) COVID-19が都市に与えた影響に関する調査 国内外の調査及び検討事例を収集し、都市特性とコロナ感染リスクの関係を整理する。 (2)スマートシェアリングシティの特徴の整理 土木学会の小委員会で検討されてきたスマートシェアリングシティを取り上げ、その概念や特徴を整理し、賢いシェアのあり方について議論する。 (3) アフターコロナにおける望ましい都市のあり方の検討 都市空間の集約的利用を進めるコンパクトシティと、ICTによる都市空間の効率的な運用を図るスマートシティを融合した新しい概念について議論する。 研究の方法は、研究メンバーが所属する各研究機関においてテーマごとに研究を実施し、年に5回程度開催する研究会において、その成果を発表する。また研究会において自由討議を行うことで、研究者間の相互連携を図る。各回の研究会の概要は以下のとおりである。 第1回： 研究テーマについての自由討議 第2回～第4回： テーマごとに、毎回2名の専門家から話題提供をいただく。 第5回： 研究集約と報告書作成、主査の研究室が中心となっていく。		